在ヨルダン日本国特命全権大使 小菅 淳一殿

> 公益社団法人 日本国際民間協力会 理事長 小野 了代 (公印略)

日本NGO連携無償資金協力事業 完了報告書

平成 22 年 11 月 14 日付日本NGO連携無償資金協力贈与契約に基づく「ザルカ県ハシミーヤ市における青少年のための「職業訓練センター」の設立・運営事業」が、平成 23 年 11 月 13 日をもって完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

- 1. 事業の実施期間: 平成 22 年 11 月 14 日~平成 23 年 11 月 13 日
- 2. 事業の実施成果(要約):

(1)成果と達成度

職業訓練センターを立ち上げた後、各種職業訓練プログラム、就業支援セミナー、情操教育とリーダーシップ育成プログラムといった、実用的な知識・技術の提供及び心理的サポート等の包括的支援を通して、職業訓練プログラム受講者<u>のべ363名(うち</u>合格者242名)の内44名が一般企業、政府機関等への就職、自身の店舗開店を行い就業した。

a. 職業訓練プログラムの開講

のべ363名(予定数315名の115%)が、就業に向け有用な職業訓練プログラムを 受講しスキルの向上を図った。内、**のべ242名**がコース終了時の習熟度テストに 合格し、修了書を受領した。

- b. <u>就業支援セミナーの開催及び企業・就職支援団体との協力関係の構築</u> **のべ11 社・団体**との協力関係を構築し、職場を訪問する**のべ15 回**の仕事内容説明セミナーを開催したほか、**のべ3 回**の就業支援セミナー(効果的な履歴書の作成方法や面接の受け方について)を受講し、**のべ444 名**が就職活動への心構えを学び、就業意欲を高めることができた。
 - 女性を対象にした女性エンパワーメントセミナーを**のべ3回**実施し、**のべ約100 名**の参加者が参加、女性の社会的地位向上、就業、女性の社会進出の重要性を学んだ。また、第2年次からの企業研修受入れに協力的な企業との関係構築を進め、**のべ5社**と第2年次の受入れ同意書の締結を行った。
- c. 情操教育とリーダーシップ育成プログラムの開催

のべ 126 名 (予定数 90 名の 140%)が、ストレスマネージメントプログラムにて、描画や演劇セッションを通し、ストレスに対処し不安を解消する方法、及び自己を表現する方法を学んだ。**のべ3回**の演劇発表会を実施し、各政府機関、関連団体、参加者家族、及び地域住民を中心とした**のべ約 770 名**の観客に向け成果を発表した。

のべ37名(予定数25名の148%) がリーダーシップ育成プログラムのセミナーに

(様式4)

参加し、地域にてリーダーシップを発揮する重要性について学んだほか、インターン生として業務に従事し、オフィスワークに必要な知識・スキルの習得に取組んだ。

(2) プロジェクトの自己評価

本事業の3年間の上位目標は、失業率が高く貧困層の多いザルカ県ハシミーヤ市における、職業訓練及び情操教育を通した青少年の就業機会の拡大である。当上位目標を達成すべく、初年度にあたる本事業では職業訓練センターの基盤構築、就業に有利となる技能の職業訓練コース開講、また就職活動を包括的にサポートする就業支援プログラム、家庭での問題や心に持つ葛藤、問題、ストレスに対処する術を身につけるためのストレスマネージメントプログラム、及びインターンシップを通してリーダーシップを養うリーダーシップ育成プログラムを実施した。初年度の実績では、各コースにおいて想定数以上の参加者の参加がみられ、事業実施地域の受益者のニーズに合致していたといえる。また、技能提供のみならず、技能習得を目指し身体的・精神的成長に向けサポートを行い、包括的に支援を行った本事業のアプローチは、上位目標を効果的に達成するために適切であったと考える。

また、項目(1)に上述の通り、各プログラムの成果・達成度は当初想定を上回る ものであり、初年度の成果を大きく達成していたといえる。

加えて、事業計画に沿って資機材の投入、スタッフ雇用、各ポジションへの配置及び各プログラム開催を行い、全体としてほぼ計画通りに事業予算を使用しており、また資機材調達、スタッフ雇用、及び各プログラム開催も概ね事業計画スケジュールに沿ったものであり、投入時期に関しても適切であったことから、効率性も問題なかったといえる。

(3) 今後の方針

3ヵ年事業の2年次においては、引き続き初年度の活動を継続するほか、①中古バッテリー再生・太陽光発電の技術者育成クラスの開講、②企業での0JTトレーニング環境の整備、③求人情報の収集システムの構築を通し、更なる活動内容の充実を図る。また、3年次終了後の現地移管を見据え、現地NGOとの連携強化、意欲・能力の高い地域の青少年を研修スタッフとして採用した人材育成とセンター運営のノウハウ移転、新規開講予定のクラス及び参加者からの授業料にて職業訓練センターの持続的運営が可能になる体制作りを進める。

- 3. 日本NGO連携無償資金精算額:329,635.78USD (契約額(供与限度額)より56,642.22 USDの減)
- 4. 会計報告(資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書):別紙のとおり
- 5. 外部監査報告書提出予定日:本事業完了報告書と同時に提出

日本 NGO 連携無償資金協力

「ザルカ県ハシミーヤ市における青少年のための「職業訓練センター」の設立・運営事業」 詳細報告書

平成 23 年 1 月 24 日

公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

1. 事業の実施成果

<プロジェクトの自己評価>

1. 計画の妥当性

<受益者ニーズとの整合性>

初年度であった本事業は、労働省ザルカ局、関係各所と協働し、ヨルダンにおいて就業に有利となる技能の調査を進め、PC (ICDL、Web デザイン、Graphic デザイン)、英語、機械修理コースからなる職業訓練コースを開講した。初年度の実績では、各コースにおいて想定数以上の参加者の参加がみられ、事業実施地域の受益者のニーズに合致していたといえる。

また、ストレスに対処する術を身につけるためのストレスマネージメントプログラム、インターンシップを通してリーダーシップを養うリーダーシップ育成プログラムに関しても、事業実施地域においては新しい概念のプログラムだったにも関わらず想定数以上の参加がみられ、受益者の高い関心があったことが見てとれる。

<受入国の政策との整合性>

ヨルダン政府が10年間の進路を定めた「国家アジェンダ(2006~2015年)」においては、貧困・失業問題の改善が最重要課題と位置づけられ、2004年に12.5%であった失業率を2017年には6.8%まで引き下げるという数値目標を掲げている。当国家アジェンダに基づいた2007~2012年の第1段階では、Employment Opportunities for All というプログラムの下、職業訓練や雇用支援に注力する計画で、失業率を引き下げることを目指している。また、事業地であるザルカ県の15歳以上の失業率は、2009年の統計局の調査によると14.8%に上っており、とりわけ人口約54000人を抱え、社会開発省の優先開発対象地域に挙げられたハシミーヤ市は開発が遅れ、都市部との貧富の格差が拡大している。そのため、失業率が高い当地域において、今後の国家の中枢となる青少年を対象として、就業機会拡大を目標として援助を行った本事業は、ヨルダン政府の政策とも合致したものである。

<プロジェクトのアプローチの適切性>

本事業の3年間の上位目標は、失業率が高く貧困層の多いザルカ県ハシミーヤ市における、職業訓練及び情操教育を通した青少年の就業機会の拡大である。当上位目標を達成すべく、本事業では職業訓練センターの基盤構築、就業に有利となる技能の職業訓練コース開講、また就職活動を包括的にサポートする就業支援プログラム、家庭での問題

や心に持つ葛藤、問題、ストレスに対処する術を身につけるためのストレスマネージメントプログラム、及びインターンシップを通してリーダーシップを養うリーダーシップ育成プログラムを実施した。 技能提供のみならず、技能習得を目指し身体的・精神的成長に向けサポートを行い、包括的に支援を行った本事業のアプローチは、上位目標を効果的に達成するために適切であった。

2. 効率性

本事業は事業計画に沿って資機材の投入、スタッフ雇用、各ポジションへの配置及び各プログラム開催を行った。全体としてほぼ計画通りに事業予算を使用しており、また資機材調達、スタッフ雇用、及び各プログラム開催も概ね事業計画スケジュールに沿ったものであり、投入時期に関しても適切であった。

また、全事業期間を通して雇用スタッフのキャパシティビルディング を行った結果、業務の効率性は上がったと考える。

3. 有効性

くプロジェクト目標の達成度>

本事業初年度のプロジェクト目標は、①各種研修機能と仕事・就職に関する情報提供機能を有する「職業訓練センター」の立ち上げ②第 2 年次からの企業研修に向け、企業・就職支援団体との協力関係の構築 ③当会撤退後の現地移管を考慮に入れ、地域の将来を担う優秀な人材の発掘と育成及び現地 NGO との関係を構築、することであった。当初計画通りセンターの立ち上げを行い、参加者が就業に有利となるスキルを身につけるための各種職業訓練プログラムや就業支援プログラムを実施し、現在までに 44名の参加者がコース終了後就業したほか、企業・関連団体との協力関係を構築したこと、情操教育プログラム及びリーダーシップ育成プログラムにて人材の育成を進めた。従って、上記のプロジェクト目標は達成できたものと考える。

<成果の達成度>

① 各種研修機能と仕事・就職に関する情報提供機能を有する「職業 訓練センター」の立ち上げ

職業訓練プログラム受講者数:延べ363名(うち合格者242名) 就業支援プログラム受講者数:延べ444名

(うち職場訪問参加者 262 名、就業支援セミナー参加者 182 名)

情操教育とリーダーシップ育成プログラム受講者数:延べ163名参加者の希望が多数であったため、ICDL クラスを1クラス、Graphic デザインを1クラス追加したことから、職業訓練プログラム受講者数は当初想定を上回った。また、上記に伴い職業訓練プログラム受講者に参加を促している就業支援プログラムに関しても、受講者数は当初想定を上回った。情操教育とリーダーシップ育成プログラム受講者数に関しても定員を上回る参加希望があり、プログラムで受入可能な範囲の定員にて受入れを実施したことから、受講者数は当初想定を上回

った。(受益者数の詳細については後述の受講者・セミナー参加者数を

参照)

② 第 2 年次からの企業研修に向け、企業・就職支援団体との協力関係の構築

就業支援プログラムの一環として、仕事内容説明セミナーを職業訓練 プログラム受講者に対して各コース毎に開催し、対象スキルを職場に て実際に使用している企業・関連団体を訪問した。延べ11社・団体と の協力関係を構築したほか、第2年次からの企業研修受入れに協力可 能な企業との関係構築を進め、延べ5社と第2年次の受入れ同意書の 締結を行った。

③ 当会撤退後の現地移管を考慮に入れ、地域の将来を担う優秀な人材の発掘と育成、及び現地 NGO との関係を構築

リーダーシップ育成プログラムによって地域の青少年が事業運営スキルを身に付けられるよう、センター運営などの実務を通して実践的に育成を進めたほか、ストレスマネージメントプログラムにても地域の青少年からボランティアを受け入れ、プログラム実施可能となるようストレスマネージメントセッションのサポート、ファシリテーションを担わせ、育成を行った。また現地 NGO の Hashimiya Ladies NGO へ職業訓練センターの活動を紹介するなどネットワーク構築を進め、第2年次以降連携を行う素地を築いた。

<成果と目標の関係性の強さ>

上述した各成果は、初年度の各プロジェクト目標に対応するものであり、従ってそれぞれの関係性は非常に強く、各成果を鑑みるに目標に沿い想定以上の成果が出たと言える。また、各プログラムが複合的に参加者に提供されることにより、相乗的効果が見られたと考える。

<外部要因の影響>

特になし

4. インパクト

- ・職業訓練センターを開講し、就業支援プログラムを通してハシミーヤ市、ザルカ県内外の企業・関連団体と連携を行ったことで、職業訓練センターの認知が高まった。
- ・リーダーシップ育成プログラムにて、特に意欲・能力の高い地域の 青少年をインターンとして受け入れ業務に従事させたことにより、職 業訓練センター参加者のロールモデルとして、参加者にプラスの影響 を与えることができた。
- ・ストレスマネージメントプログラム演劇発表会を実施し、各政府機関、関連団体、参加者家族、及び地域住民を中心とした観客に向け、幅広く職業訓練センターの活動を共有できたほか、演劇を通して参加者の成長が示されたことにより、参加者のみならず家族の精神的充足を促進することができた。

上記ポイントを鑑み、正のインパクトの発現が期待できる。

5. 自立発展性

・事業開始から3年次終了後の現地移管を見据えて、本事業のリーダ

- ーシップ育成プログラムによって地域の青少年が事業運営等のスキル を身に付けられるよう育成を進めた。
- ・ストレスマネージメントプログラムにて地域の青少年からボランティアを受け入れ、プログラム実施を担えるように育成を行った。
- ・ 行政と密な連携を保ち、継続的なサポートを受ける体制作りを進めた。
- ・ 本事業にて投入した資機材は、各プログラム時のモニタリング、センターの施錠、資産リスト運用等の各種管理体制を構築し、長期的に活用できるよう、適切な管理体制にて維持管理を実施した。

<今後の方針>

2年次では、初年度にリーダーシップ育成プログラムに参加し、特に意欲・能力の高い地域の青少年などから希望者を対象に選考を行い、センターでの各種プログラムを運営する研修スタッフとして採用し、人材育成を行う。また、3年次終了後の現地移管を見据えて、プログラム実施に意欲を示している現地 NGO と連携し、移管先団体の決定を行う。また、本事業の研修スタッフや現地 NGO メンバーが事業運営を行うスキルを身に付けられるように、日本人スタッフおよび現地スタッフが監督して人材育成とセンター運営のノウハウ移転を進め、当会撤退後に現地 NGO と地域の青少年が主体となり、行政のサポートを受けながらセンターを管理していく体制を整備する。また、センターでの実習で再生する中古バッテリーの取引から生じる利益と参加者から徴収する小額の授業料をセンター運営費の一部に充て、当会撤退後も職業訓練センターの持続的な運営が可能になる体制作りを行う予定である。

事業内容説明写真

事業名: ザルカ県ハシミーヤ市における青少年のための「職業訓練センター」の設立・運営事業(ヨルダン・ハシェミット王国)

事業期間: 2010年11月14日~2011年11月13日

1. 職業訓練プログラム実施

ハシミーヤ市が管轄する The Modern Village を事業地として職業訓練センターを開校し、各種職業訓練プログラムを開始した。

【職業訓練センター開校準備】





左:職業訓練センターに家具を搬入する日本人スタッフ(現地統括松永、会計・アドミニ担当宮越)右:PC 教室にて業者とPC 設定の調整を行う現地スタッフ(フィールドマネージャーMohammad)

【MOU 締結】





左:事業地の The Modern Village 賃貸に関する MOU を締結する日本人スタッフ (現地統括松永) とハシミーヤ市長

右: MOU 締結後、ハシミーヤ市庁舎にて関係者に事業内容の説明を行った。

【PC コース】

IT スキル習得基礎、グラフィックデザイン、WEB デザインの3クラスからなるPCコースを開講。

● 第1ターム:2011年1月20日~4月12日

参加者のレベルを測る事前テストを実施した後、レベル分けを行い、ICDL クラスから開講した。





PC 講師監督の下、事前テストを実施する様子





ICDL クラス講義の様子。講師からの説明や活発な質疑応答を交えながら、PC を用いた演習により、 実践的なスキルを養った。また、適宜スタッフがコースのモニタリングを行い、講義内容、参加者 の積極性、講師・参加者間のコミュニケーションなどの評価を行った。

● 第2ターム: 2011年4月27日~7月18日

第1ターム同様、参加者のレベルを測る事前テストを実施した後、レベル分けを行い、WEB デザインを1クラス、グラフィックデザイン2クラスおよび ICDL1クラスを開講した。



WEB デザインクラスの様子



PC コースの講師 Akram 先生





グラフィックデザインクラスの様子。プロジェクターを用いて Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Flash の使い方を学び、実際に制作することで知識とともに実践的なスキルの修得を目指した。

● 第3ターム: 2011年7月31日~10月23日

第1・第2ターム同様、参加者のレベルを測る事前テストを実施した後、レベル分けを行い、WEB デザイン2クラスとグラフィックデザイン1クラスを開講した。本タームでは、各クラスにおいて 第2タームのWEB デザインクラスおよびグラフィックデザインクラスを修了した参加者が引き続き より高度な内容を学べるクラスを設けた。WEB デザインクラスでは初心者向けクラスも開講した。



WEB デザインクラスの様子



グラフィックデザインクラスの様子

【英語コース】

● 第1ターム: 2011年1月12日~4月13日

参加者のレベルに沿って初級・中級レベルの2クラスを開講し、文法、会話、ライティング、リーディングを組み合わせ、実践的な能力の向上を目指した英語コースを開講した。





中級クラスオリエンテーションの様子。英語コースを担当する日本人スタッフ(会計・アドミニ担当宮越)が、当プロジェクトの紹介を行った後、コース内容及び達成目的について説明した。





左:初級クラス担当講師によるオリエンテーション 右:中級クラス担当講師によるオリエンテーション





中級クラス講義の様子。講師は、参加者に頻繁に質問しながら、会話練習・文法・長文読解を組み合わせた包括的な講義を実施した。





初級クラス講義の様子。基本的な文法説明を丁寧に行い、参加者の基礎力を高めつつ、会話練習・ 長文読解を取り入れ、総合的な英語力の向上を図った。





中級クラスの英語スピーチコンテストの様子。参加者は各自発表したい内容を英語で発表した。ヨ ルダンについて、家族についてなどバラエティに富んだテーマが選ばれた。





左:英語コース担当日本人スタッフ(会計・アドミニ担当宮越)による説明 右:優秀者発表、及び日本人スタッフ(現地統括松永)による賞状授与





初級クラスの英語劇練習の様子。英語での会話に慣れるために英語劇を取り入れ、演劇発表会での 発表に向けて、シーン毎に練習を実施した。





第1回演劇発表会にて実施した、初級クラスの英語劇の様子。参加者は大勢の観衆を前に、学習の成果を発揮し英語にて堂々と演じた。

● 第2ターム: 2011年4月20日~7月17日

第1ターム同様、初級・中級レベルの2クラスを開講した。





初級クラスの様子。授業をモニタリングする日本人スタッフ (会計・アドミニ担当堀田)。





中級クラスの様子。参加者の質問に対し、講師は丁寧に指導している。





中級クラスの英語スピーチョンテストの様子。参加者各自がテーマを選んで英語で発表した。ヨルダン、家族、将来の夢についてなどバラエティに富んだテーマにそってスピーチを行う参加者と、前列にて採点している講師の Ekram 先生、日本人スタッフ(現地統括松永、会計・アドミニ担当堀田)及び現地スタッフ(プロジェクトマネージャーアシスタント Ameeneh、フィールドマネージャーMohammad、プログラムコーディネーターMais)。

● 第3ターム: 2011年7月27日~10月25日

第1、2ターム同様、初級・中級レベルの2クラスを開講した。



初級クラスの様子



中級クラスの様子





左:初級クラスの英語オーラルテストの様子。模擬面接形式の試験を行っている参加者と試験官の 講師 Ekram 先生、Bassem 先生及び日本人スタッフ(現地統括松永、会計・アドミニ担当堀田)。 右:参加者が、各試験官から質問される内容に一生懸命に答えている様子。

【機械修理コース】

● 第1ターム: 2011年1月12日~4月12日

事前テストを実施し、参加者の事前知識レベルを測った上で、携帯電話及び PC 修理クラスを 1 クラスずつ開講した。







左上:ヒートガン(携帯電話修理ツール)を用い、携帯電話修理方法を実践的に学ぶ参加者。

右上、左下:携帯電話修理講師が、演習を行う参加者を個別に指導する様子。







左上、右上: PC パーツに関して説明を行う PC 修理講師と、真剣な面持ちで説明を聞く参加者。 左下:講義形式で PC 修理方法の理論を説明する PC 修理講師と、クラスのモニタリングを行う現地 スタッフ(プログラムコーディネーターAyat)。

● 第2ターム: 2011年4月21日~7月19日

第1ターム同様、事前テストを実施し、参加者の事前知識レベルを測った上で、携帯電話及びPC修理クラスを1クラスずつ開講した。







左上、右上:携帯電話修理クラスの実技研修の様子。

左下:講義形式でPC修理方法の理論の説明を聞く参加者。

● 第3ターム: 2011年7月26日~10月25日

第1、2 ターム同様、事前テストを実施し、参加者の事前知識レベルを測った上で、携帯電話及び PC 修理クラスを 1 クラスずつ開講した。





携帯電話修理コースの様子

PC 修理コースの様子

● 日本人専門家による機械修理セミナー(2011年7月21日)

日本人専門家を招いて機械修理セミナーを実施した。専門家との活発な質疑応答もなされ、参加者は意欲的にセミナーに臨んだ。コース終了後のキャリアプランについて考える機会を提供することで、参加者のさらなる意欲の向上を図った。









左上:日本人専門家江口氏が、模型を用いながら機械修理について説明する様子。

右上、左下:講義形式での機械修理に関する説明を聞く参加者と通訳する日本人スタッフ(会計・

アドミニ担当堀田) 及び現地スタッフ (フィールドマネージャーMohammad)。

右下:機械の専門分野に関わる技術習得への心構えや起業について等の話を熱心に聞く参加者。

2. 就業支援プログラム実施

開講コースに関連した企業を訪問し、そこで働く同年代の青少年などから、業務内容や必要とされるスキル、適性等、仕事についての情報を聞く仕事内容説明セミナーを実施した。

a. 企業訪問

【PC コース】

Royal Jordanian Geographic Center 訪問 (2011年2月23日)









左上、右上: PC スキルを業務で日常的に使用する担当者から、通常業務の内容、職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者。

左下、右下: Royal Jordanian Geographic Center について説明を聞く参加者と、引率する日本人スタッフ (現地統括松永)。

【PC コース: ICDL クラス】

Al-Zarqa Municipality 訪問 (2011 年 6 月 15 日)





左: PC スキルを業務で日常的に使用する担当者から、通常業務の内容、職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者。

右: Al-Zarqa Municipality について情報システム部マネージャーより説明を聞く参加者と引率する現地スタッフ (プログラムコーディネーターAyat)。

【PC コース:WEB デザインクラス】

Al-Motassafeh for web design 訪問 (2011 年 6 月 13 日)





担当者が作成した WEB サイトをモニターに映しながら通常業務の内容を説明する様子と、それを熱心に聞く参加者及び引率する日本人スタッフ(会計・アドミニ担当堀田)。

Jordan Radio Al Balad 訪問 (2011年9月28日)





左: Jordan Radio Al Balad について説明を聞く参加者。

右:WEBサイトの作成・管理責任者から通常業務の内容、職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者。

【PC コース:グラフィックデザインクラス】

Al-Hawatmeh Co. for printing and design 訪問 (2011年9月12日)





左: Al-Hawatmeh Co. for printing and design について説明を聞く参加者と引率する日本人スタッフ (現地統括松永) 及び現地スタッフ (プログラムコーディネーターAyat)。

右:グラフィックデザインのスキルを業務で日常的に使用する担当者から、通常業務の内容、職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者。

【英語コース】 Consolidated Jordanian For Steel Industry Factory 訪問 (2011 年 2 月 28 日)









左上、右上:英語を業務で日常的に使用する担当者から、通常業務の内容、職場の様子に関して話 を聞く参加者。

左下:質疑応答を交えながら、担当者の経験談を聞く参加者。

右下:引率する日本人スタッフ(会計・アドミニ担当宮越)と現地スタッフ(プログラムコーディネーターMais)。

Umniah 訪問 (2011 年 6 月 22 日)





左:英語を業務で日常的に使用する担当者から、どのように英語が役立っているか、どうスキルを伸ばしてきたか等の説明をセミナー形式で聞く参加者。

右:質疑応答を交えながら、担当者の経験談を聞く参加者。

Jordan Paper & Cardboard Factories Co. Ltd 訪問 (2011年9月21日)





左:英語を業務で日常的に使用する担当者から、通常業務の内容、職場の様子に関して話を聞く参加者。

右:質疑応答を交えながら、担当者の経験談を聞く参加者。

【機械修理コース:携帯電話修理クラス】 NOKIA Company 訪問 (2011年3月27日)









左上、右上:携帯修理部門のリーダーから、業務内容や職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者と引率する現地スタッフ(プロジェクトマネージャーアシスタント Ameeneh)。

左下、右下:作業中の修理担当者から、業務内容及び修理に使用しているツールについて説明を聞く参加者。

NOKIA Company 訪問 (2011年6月5日)





左:携帯修理部門のリーダーから、業務内容や職場の様子に関して質疑応答を交えながら聞く参加者。

右:業務内容及び修理に使用しているツールについて説明を聞く参加者。

【機械修理コース: PC 修理クラス】 Lake company 訪問 (2011 年 3 月 2 日)







左上、右上: PC 修理を実施している同年代の担当者から、業務内容、PC 修理スキルがどのように役立っているかについて、質疑応答を交えながら聞く参加者と引率する PC 修理講師 Mohammad 先生。左下: 修理に使用しているツールや PC パーツを見せながら説明を行う担当者。

Lake company 訪問 (2011 年 6 月 4 日)





左:修理に使用しているツールやPCパーツを見せながら説明を行う担当者。

右: PC 修理を実施している担当者から、業務内容、PC 修理スキルがどのように役立っているかについて、質疑応答を交えながら聞く参加者。

b. 就業支援セミナー 就業支援セミナー (2011 年 4 月 5~6 日)





左:効果的な履歴書の作成方法や面接の受け方を説明する労働省ザルカ局職員。

右:真剣な面持ちで説明を聞く参加者。

就業支援セミナー (2011年10月17~18日)





効果的な履歴書の作成方法や面接の受け方を説明する Care International Organization の地域開発マネージャーSarsak 氏と、それに聞き入る参加者。

労働省ザルカ局主催のジョブフェア (2011年4月20日)





左: NICCO ブースを出展し、来場者に職業訓練センターの紹介をするインターン生。

右:労働省大臣に職業訓練センターの説明を行う日本人スタッフ(現地統括松永)と現地スタッフ (プログラムコーディネーターMais)。

c. 女性エンパワーメントセミナー

南シューナ現地 NGO アルジャワースレによるセミナー(2011年5月17日)





左:南シューナ訪問前の事前研修。

右:アルジャワースレ代表による、商品開発及び収入創出活動を継続し社会進出が可能になった経験談をセミナー形式で受講する女性たち。

日本人専門家によるセミナー (2011年7月20日)

日本人専門家が約30年にわたり女性として国際社会と渡り合ってきた経験と、職業訓練による女性の自立支援に従事してきた専門性を生かし、国際社会での女性の現状や、女性の社会進出への権利等について講習を行い、女性たちの就業意識を向上させることができた。





女性を中心とした参加者に講習を行う日本人専門家(NICCO 理事長小野了代)。

南シューナ現地 NGO アルジャワースレによるセミナー(2011年 10月31日)





南シューナにおいて現地 NGO アルジャワースレによるセミナーを受講する女性たち。アルジャワースレ女性からは、商品開発及び収入創出活動を継続し社会進出が可能になった経緯や、向上心を持って日々学び続ける重要性等が語られた。

3. 情操教育とリーダーシップ育成プログラム実施 【ストレスマネージメントプログラム】

ストレスに対処し、不安を解消する方法を学ぶ、ストレスマネージメントのワークショップを開講 し、就業後も精神的に安定した生活を得られるようサポートを行った。

● 第1ターム: 2011年1月23日~4月16日





左:針金と粘土を用い今までの人生を点と線で自由に表現する参加者。

右:参加者によって様々な作品が創作された。



自分の作品について発表を行う参加者と質問を行う現地スタッフ(フィールドマネージャー Mohammad)。人前で自身の言葉で発表を行うこと、他者からの質問に答えることは、自信をつける上で、また自身を掘り下げる上で重要な過程である。





左: グループに分かれ寸劇を行う参加者と日本人研修生。1 シーンずつ短く区切って演じることで、 演技をすることに慣れていく。

右:演劇発表会に向け台本の読み合わせを行う参加者。





左:約200名の観客の前で堂々と演技する男性参加者。

右:演技終了後、観客に挨拶する女性参加者。





左:演技終了後、ストレスマネージメントプログラムへの参加を通して、自分たちの内面にどんな変化があったかを観客に語る男性参加者。

右:ストレスマネージメントの修了証を受領し喜ぶ女性参加者と現地スタッフ(フィールドマネージャーMohammad)。

● 第2ターム:2011年4月28日~7月25日









左上・左下:「眠りにつく際に自身を不安にさせること、喜びを与えること」等をテーマとした描画セッションで、説明を受けた後絵を描く参加者。

右上・右下:自分の作品について発表を行う参加者と質問を行う現地スタッフ(フィールドマネージャーMohammad)。





左:演劇セッションの導入・アイスブレークにて身体を動かしながら歌を歌う参加者。 右:台本を片手に演技練習を始める参加者(左)と演技指導をする演劇講師 Fatime(右)。





左:演劇セッションの導入・ミラーゲーム(片方が鏡になり相手の動きに合わせた動作をする)を する参加者。

右:演劇発表会に向け台本の読み合わせを行う参加者。





左:演劇発表会にて歓迎の挨拶をする、NICCO 理事長小野了代。 右:約300名の観客で賑わう会場(King Abdullah II Theater)。





左:大学生の男性役を堂々と演じる女性参加者。右:演技終了後、観客に挨拶をする女性参加者。





左・右:男性参加者による演技。日頃の練習の成果を存分に発揮し、生き生きと演じた。

● 第3ターム:2011年7月28日~11月1日









左上・左下:描画セッションで、説明を受けた後絵を描く参加者。

右上・右下:自分の作品について発表を行う参加者と、他の参加者に対しての説明を交えながら質

問を行う現地スタッフ(フィールドマネージャーMohammad)。









左上:演技をすることに慣れるため、楽器演奏の寸劇を行う参加者。

左下:演劇セッションの導入・アイスブレークにて発声練習を行う参加者と日本人研修生。現地ボ

ランティア(右端)がリードしている。

右上・右下:演劇発表会に向け練習を行う参加者。





左:嘆きの演技を見せる女性参加者。

右:お年寄りに扮した参加者のコミカルな演技は観客の笑いを誘い、客席との一体感を生み出した。





左・右:演技終了後、観客に挨拶をする参加者。

【リーダーシップ育成プログラム】

参加者の中で特に意欲がある者を対象に、インターン生として、センターの運営や各種ワークショップの企画・実施において責任を担う役割を与え、OJTとして業務に取り組ませることにより、実践的・実務的にリーダーシップを取る訓練を行う、リーダーシップ育成プログラムを開始した。





左: リーダーシップ育成プログラム参加希望者がグループに分かれ、与えられたテーマに沿ってディスカッションを行う様子。

右:グループディスカッション選考を経てインターン生として選抜された参加者に、NICCO 概要を説明する現地スタッフ(プログラムコーディネーターMais)。





左: 職業訓練センターの受付カウンターにて、職業訓練コースについて尋ねる来訪者に説明する インターン生。カウンター業務を通じてコミュニケーションスキルの向上を図った。

右:職業訓練コースの参加者に、講師からの連絡事項を電話で伝えるインターン生。参加者への電話連絡は、インターン生の重要な業務のひとつ。





左:職業訓練センターの掲示板に、本校の紹介が掲載されている新聞記事を貼り付けるインターン生。広報材を作成し、掲示して参加者に周知することもインターン生の重要な業務のひとつ。 右:参加者を対象とするアンケートのデータを Excel を使って集計するインターン生。各種文書作成を通じて、実務に必要な PC スキルの向上を図った。



第3タームのインターン生卒業式。修了証書を手にするインターン生5名と日本人スタッフ(現地統括松永)、現地スタッフ(プログラムコーディネーターMais)、日本人研修生。

● 日本人専門家によるリーダーシップ育成セミナー(2011年7月20日)

日本人専門家により、若者が地域のリーダーとして自覚を持つことが地域の安全や活性化にいか に貢献するのか、地域に貢献するためにどのような心構えでいるべきか等について講習が行われ、 参加者の意識向上に役立った。





左:日本人専門家小野修氏が、リーダーシップを発揮するために必要な心構えについて説明する様子。

右:説明を聞く参加者と通訳する現地スタッフ(プログラムコーディネーターMais)。

日本NGO連携無償事業資金収支表

団体名:公益社団法人 日本国際民間協力会

事業名(実施国): ザルカ県ハシミーヤ市における青少年のための「職業訓練センター」の設立・運営事業(ヨルダン・ハシェミット王国)

自 2010年11月14日 至 2011年11月13日

目 2010年11月	<u>連携無償</u>	<u>年11月13日</u> 自己資金	証憑番号	
			(連携無償)	<u>(自己資金)</u>
【収入の部】				
総収入	386,278.00			
F-t-ula - to V				
【支出の部】				
1. 現地事業実施経費	228,840.49	5,185.88		
(1)現地事業費	115,337.10	148.55		
(イ)資機材購入費等	28,668.10	24.01	A-1~A-147	
(ロ)ワークショップ等開催費	73,332.99	124.54	A-148 ~ A-375	
(ハ)専門家派遣費	13,336.01	0.00	4 070 4 001	
派遣専門家日当、宿泊費	4,639.83		A-376~A-381	
派遣専門家渡航費、謝金	8,696.18		AD-1 ~ AD-15	
(2)事業管理費	113,503.39	5,037.33		
(イ)現地スタッフ人件費	36,025.21	0.00	A-382~A-425	
(口)現地事務所借料等	8,074.36	0.00	A-426~A-474	
(ハ)現地移動費	28,806.52	221.02	A-475~A-515	
(二)会議費	0.00	0.00		
(木)通信費	3,440.19	101.12	A-516~A-597	
(へ)事業資料作成費	334.23	0.00	A-598 ∼ A-652	
(h)事務用品購入費等	6,279.21	792.86	A-653∼A-725	
(チ)本部スタッフ派遣費	30,543.67	3,922.33		
住居賃借料、ヨルダン居住ビザ・労働許可証申請料	14,254.07		A-726 ∼ A-738	
派遣スタッフ旅費、内国旅費、保険料、宿泊費・日当(一時帰国)	16,289.60		AD-16∼AD-35	
2. 本部事業実施経費	91,419.97	5,034.40		
(1)本部事業管理費	91,419.97	5,034.40		
(イ)本部スタッフ人件費	90,813.71	5,034.40	AD-36 ~ AD-101	
(口)会議費	0.00	0.00	AD 400 AD 440	
(ハ)通信費	456.69	0.00	AD-102∼AD-118	
(二)事業資料作成費	0.00 149.57	0.00	AD 110 AD 101	
(ホ)事務用品購入費 (2)その他安全対策費	0.00	0.00	AD-119∼AD-121	
(3)一般管理費	0.00	0.00		
(3)一放官垤复	0.00	0.00		
3. 外部監査費	9,375.32	0.00		
ヨルダン側外部監査費	98.87	0.00	A-739	
日本側外部監査費	9,276.45	0.00	AD-122	
総支出	329,635.78	8,951.33		
	56,642.22	0.00		
7% [P]	30,042.22	0.00		